日本教育新聞　平成29年（2017年）12月18・25日（月曜日）

「SEL」で不登校対策　欧米諸国で広く実践

議会質疑！解説

仙台市議会の佐藤わか子議員は、不登校問題について質問する中で、不登校にならないようにするための策の必要性を強調。SELを導入している岡山県総社市を例に出して必要性を訴えた。

総社市教委は年間を通して研修会を開き、SELをはじめ、授業のつくり方、いじめ対策などを扱ってきた。同時に、「欠席3日で家庭訪問」を掲げて、各校での早期対応などにも努めてきた。

不登校の出現率は中学生の場合、平成22年度の3・63％をピークに減少となり、28年度は1・63％にまで下がった。小学生の場合は23年度の0・55％から0・38％（28年度）にまで下がったという。（編集局）

仙台市

平成29年9月21日

佐藤　わか子議員

効果に対する所見は

――以前から仙台市の不登校対策は、適応指導教室に代表される、児童・生徒が不登校になってからの事後的な取り組みに偏っている、予防や早期介入に取り組まなければ、不登校の児童・生徒数を減らすことはできないと、指摘させていただいてきた。

本気で不登校対策に取り組む気があるならば、他都市の先進事例は山のようにある。例えば、岡山県は、対症療法的な取り組みをどんなにやっても不登校を減らすことができないとして、不登校対策を百八十度変更して、未然防止、早期発見、早期対応に全面的に軸足を置き換えることで効果を上げているとのこと。

不登校の背景として多く見られる二つの要因、対人関係のつまずきと学習面でのつまずきについて取り組まれた事例として、対人関係のつまずきにおいては、岡山県総社市において、具体的な対人関係のスキルをロールプレーやグループワークで学ぶ「SEL」、社会性と感情の学習を実践している。

不登校やいじめに効果があるといわれているが、総社市で取り入れている「SEL」を教育局としてどのように認識されておられるのか、その効果についてご所見をお伺いする。

導入自治体で出現率が減少

教育長　「SEL」は、ロールプレーイングやグループワークなどの体験的学習などを通して、自己や他者の感情を理解し、適切な表現の仕方を学び、他者との関わり方を身に付けながら、社会性を育むことを目指したものと認識している。総社市等において「SEL」を実践することにより、不登校出現率が減るなど、不登校の未然防止等に一定の成果があったと伺っている。

本市でも、子どもたちがこれからの変化の激しい社会を生き抜くための、たくましく生きる力育成プログラムのロールプレーイングやゲーム的要素を取り入れるなどの授業実践を通して、自己肯定感を高めたり、他者と関わる力や気持ちをコントロールする力を育成したりするなど、生きる上で必要となる知恵や態度を育んでいる。

今後、他都市の取り組みなどを参考としつつ、対人関係能力等を育成する上で、有効な手だてを授業プランに追加するなど、不登校の未然防止やいじめ防止等にも生かすことができるよう、改善を図ってまいりたい。（議事録を要約、写真は佐藤議員のホームページから）

【次回は1月15日付掲載】